

國學院大學學術情報リポジトリ

『平家物語』諸本における平家西国記事の流動展開：
平清経入水譚を中心として

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2025-05-22 キーワード (Ja): 清経入水, 『平家物語』 卷第八, 宇佐行幸, 太宰府落ち, 清経北の方 キーワード (En): 作成者: 松永, 早知 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.57529/0002001656

論 文 要 旨

学籍番号	233206	氏 名	松永 早知
論文題目： 『平家物語』諸本における平家西国記事の流動展開―平清経入水譚を中心として―			
(内容の要旨) 『平家物語』において、平重盛の三男である左中将清経は、豊前国柳ヶ浦で入水を遂げる。これは一ノ谷合戦や屋島・壇ノ浦合戦に先行するできごとであり、『源平盛衰記』などはこの清経の入水を「平家の憂き事のはじめ」と語るなど、『平家物語』世界において重要な位置を占める記事である。 しかしながら、現在の『平家物語』研究において中心的伝本とされる覚一本（高野本）が清経入水についてまとめた量の記事をもたないこともあり、『平家物語』における清経入水譚の研究は進んでいるとはいえない。諸本の異同状況の指摘は蓄積されているものの、それらの異同が物語内部のどのような認識の反映であるのかという点については十分な議論がいまだなされていないように思われる。 本稿では、そのような状況にある清経入水譚について、『平家物語』諸本間の異同状況を改めて整理するとともに、清経の入水理由の差異や清経北の方譚の有無が各伝本の物語内部にどのような影響を与えているのかという点について、清経の人物像や往生への志向といった観点から検討する。 また、平家一門の九州での動向について語る平家西国記事群（巻第八前半部）は、章立てや記事の配列が諸本間で大きく異なっており、本文の流動展開についてこれまでも議論が重ねられてきた。本稿では日程的・地理的な検証という従来的な方法に加えて、各伝本が持つ文脈や表現指向、前後章段との関連に注目し、特に宇佐行幸記事と平家大宰府落記事の配列について検討を行った。 結論として、清経入水譚および平家西国記事群においては、延慶本や『源平盛衰記』、語り本系諸本に対して、長門本がより古態を有している可能性を指摘した。また記事配列について、宇佐行幸記事が平家大宰府落記事に先行する伝本は、清経北の方詠歌を踏まえた後次的な改編を経ている可能性を見出した。これは先行研究で指摘されてこなかった内容であり、本稿の成果として強調したい。 今後、同様の手法によるより多くの場面の検討が求められる。 (827 字)			
キーワード (5 語)			
『平家物語』巻第八、清経入水、宇佐行幸、大宰府落ち、清経北の方			